

---

# 仮面ライダー×仮面ライダー hyper-cloth MOVIE大戦LEGEND

k.i + k.iに参加してくださった皆様

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

仮面ライダー×仮面ライダー hyper-cloth MOV  
IE大戦LEGEND

### 【Nコード】

N0972Z

### 【作者名】

k・i+k・iに参加してくださった皆様

### 【あらすじ】

これは、小説ですが、『MOVIE大戦』と銘打っております。何故なら、これは『仮面ライダー×仮面ライダー フォーゼ&オーズ/000 MOVIE大戦MEGA MAX』、仮面ライダー四十年を記念した作品だからです。僕の小説や、他作者様の小説のクロスです。まだそれを読んだ後に読まれるのが良いでしょうが、一応、これだけでもある程度物語にはなっています。MEGA MAXと同じく、序章・ブリッジ・MOVIE大戦パートとなり、そ

れをまとめているのが本作です。そのため、どちらかと言えばやはり読まれた後に読むのが良いかとも思われます。平成九人ライダーの物語ですが、MOVIE大戦パート中心なので、その内容は薄いです。他作品公開につれて、その作品名を順次公開していきます。原作名にリリカルなのはとありますが、これはクロスする作品の原作です。あくまでもそちらの方にその原作は出ますが、能力等について、問題が発生しないよう原作名に追加してあります。

## レッツゴー九人ライダー 序章パート（前書き）

予告にあった『伝説級のライダー』の素体を出します。素体がなければ成立しないので。

基本的に、この素体と九人ライダーの戦いが中心となります。

## レッツゴー九人ライダー 序章パート

地鳴り。

地を揺るがす振るえと共に起こる。

いわゆる振動波によって起こるものであるが、今回の場合、その源は大地ではなかった。

その地鳴りは、たった九人の人間たちによって起こされた。バイクに乗って駆け抜ける九人である。それぞれ特徴的なものだった。

そこは、荒野。幸い周りへ被害が及ぶことはない。だが、一体何故、九人でこれほどの振動を起こすことが出来たのか。普通の人間では無理な話である。

違う。

彼らは、一種の兵器を用いていた。兵器、といえば聞こえが悪いが、どちらかと言えば使用するの自分たちである。自分たちの能力を活かし、大きな力を生み出す。

彼らを、『仮面ライダー』と言う。仮面ライダーは、四十年ほど前からいた。正義の味方、それに近い存在である。そのうちの九人が、その荒野にて走っていた。

白バイから無駄をそぎ落とし、色を黒く、ツノのようなフロント

部分を金に染めたバイクに乗った、『仮面ライダークウガ』。クウガタのような金のツノ、複眼・装甲はシンプルなもので赤色。

金と赤が入り乱れ、ライトが青くまるで目のようになっていくバイクに乗った、『仮面ライダーアギト』。龍のような顔。クウガと同じ配色がなされているが、胴体の方は黄色く大地のようだ。

龍騎士のような全体的に赤い仮面ライダー、『仮面ライダー龍騎<sup>りゅうき</sup>』。シールドまで付けられた重武装のスクーター的バイクに乗っている。

そのままロボットに変形しそうなほど機械的な、スマートな銀色のバイクに乗った、『仮面ライダーファイズ』。とても軽そうな武装をしており、赤いラインが体中に走っている。を模した頭。黄色い複眼を有している。

「ハア、ハア……」

彼ら四人のうち、龍騎だけは何故か辛そうだ。この姿であることに何か負担があるのだろうか。残り五人のうち一人、『仮面ライダーキバ』が彼を心配した。

「リュウガさん、大丈夫ですか？ やはり、あなたが龍騎になるのには無理が……」

「いや、問題ない、紅<sup>くれない</sup>。少なくともこの戦いはコイツでいきたい」

『リュウガ』と呼ばれた龍騎はキバ、紅に対し答えた。だが、やはり少しつらそうだ。

仮面ライダーキバは、その隣を走る鬼のような戦士、『仮面ライダー響鬼』と同じく、普通のバイクに乗車していた。

キバはコウモリないしは吸血鬼のような仮面ライダーだ。ファイズと同じく黄色い複眼を持つが、その形はコウモリの翼の形にも似ている。また、胸は真紅に染まっている。さらに四肢に銀の鎧を付け、チェーンがその上から装着されていた。

また、響鬼。彼は二本角の鬼とも呼べる存在。元々仮面ライダーではない、まさに『鬼』と呼ばれていた者だったが、今回の戦いに仮面ライダーとして参加した。青のような赤のような、不思議な反射をする体表。歌舞伎のような模様がその体表の上から赤く浮き彫りされている。

「おまえにもゆずれないものがあるんだな」

リュウガに対し、響鬼が言う。リュウガは、ヘッと息を吐いて返した。

「フン、俺は今回の戦いに龍騎、『城戸真司』として参加してる。だったら最後まで戦わなくちゃあ、俺は本物にいくらたってもなれない」

「……………あなたがそういうのなら仕方ありません。じゃあ、”闇”との戦いに進みますよ」

キバが言う。冷静にふるまっているようだが、彼もまたこの緊迫した状況に不安を感じているのかもしれない。

”闇”とは一体何なのだろうか。これから彼らが戦う敵は、如何

なる者なのか。

「おばあちゃんが言っていた。光あれば闇あり。人は、常に闇と戦い、自分を高めると」

赤い、カブトムシに似た、青い複眼のライダーが響鬼の隣で、凜とした声でつぶやいた。バイクも赤いカブトムシのようである。つぶやき、というよりもむしろ、他の仮面ライダーたちに言い聞かせている感じもする。彼の名は『仮面ライダーカブト』。

「おうおう、”闇”が来やがったぜっ！」

桃が顔に張り付いている。そんな形容が出来る仮面ライダーが叫んだ。彼の装甲などは赤い。彼らのうち半分は基本カラーが赤の仮面ライダーである。ちなみに彼の名は、『仮面ライダー電王』でんおう。鳥のようなバイクに乗車している。

「何だと、さっきの爆発で一度振り切ったとばかり……」

仮面ライダーの一人、同じくカブトムシを模しているが金色で、複眼は対照的に赤い、『仮面ライダーブレイド』がうめいた。青いスピードが張り付いたフロントのバイクに乗っている。彼だけは、ある理由で最強の姿、『キングフォーム』である。そのため彼が最も重武装だ。身体の各部に十三の紋章がある。

「いえ、あの程度で”闇”が去るとは到底思えません。再び交戦するしかないでしょう」

そういつとキバはバイクのスピードを速めた。他もそれに続く。

「リュウガ、おまえは奴の力に唯一耐えることが出来る。頼んだぞ」  
ブレイドが龍騎に向かってささやく。” 闇” に聞こえないための  
配慮だろうか。

「ああ。『存在していない』のは俺だけだ。そのために今まで悩ま  
されてきたが、今回、それが重要になるうとはな」

「く、来た！」

クウガが叫ぶ。次の瞬間、九人のライダーは黒い煙に似たものに  
包まれた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0972z/>

---

仮面ライダー×仮面ライダー hyper-cloth MOVIE大戦LEGEND

2011年12月3日19時58分発行